

経済・金融 フラッシュ

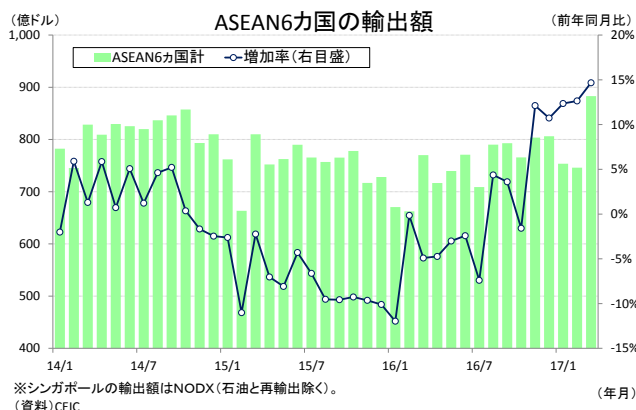
【東南アジア経済】 ASEANの貿易統計(5月号) ～輸出は5ヵ月連続の二桁増を記録

経済研究部 研究員 齊藤 誠
TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

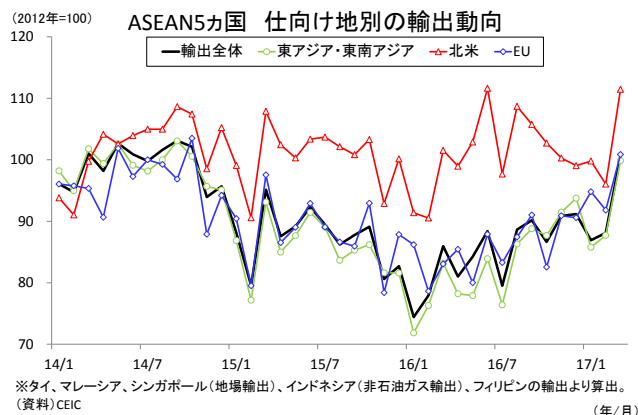
17年3月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比14.7%増と、前月の同12.6%増から小幅に上昇した（図表1）。輸出は16年初から資源価格の底打ちで緩やかに持ち直しに向かい、年後半には海外需要の増加を受けて一次産品や半導体を中心に一段と加速、現在は5ヵ月連続の二桁増を記録している。先行きの輸出は当面高水準を維持するだろうが、これまで輸出を押し上げていた価格上昇の要因が剥落するとともに主要貿易相手の中国で不動産抑制策が導入されるなか、輸出の伸びは年末までには一桁台に鈍化していくものと予想する。

なお、ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、東アジア・東南アジア向けと欧州向けが一段と増加するとともに、昨年後半から伸び悩んでいた米国向けが再び勢いを取り戻しつつある（図表2）。

(図表1)



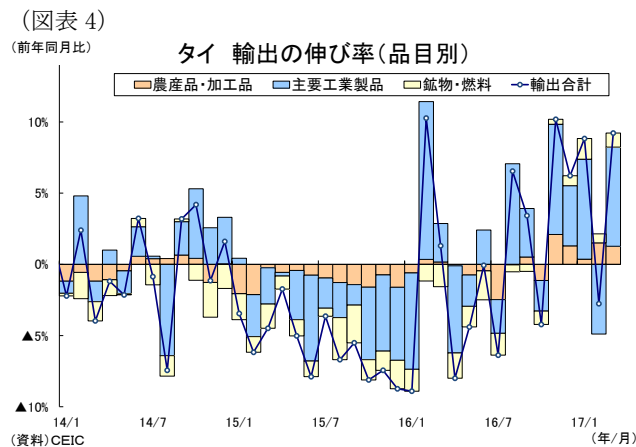
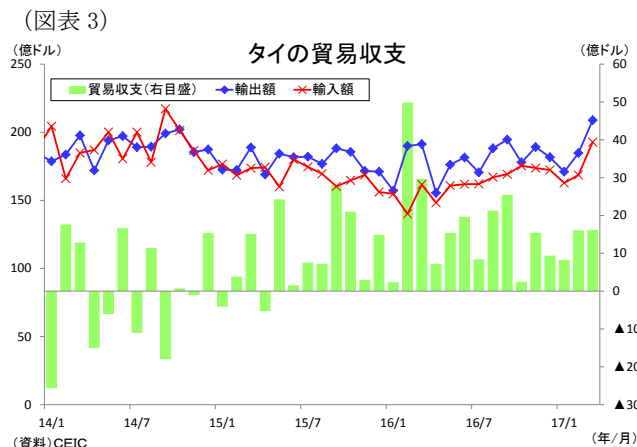
(図表2)



タイの17年3月の輸出額は前年同月比9.2%増と、前年の金輸出の急増からの反動減で一時的に落ち込んだ前月の同2.8%減から上昇し、2ヵ月ぶりのプラスとなった。輸出の伸びは上下に大きな振れを伴いながら、16年の資源価格の上昇と半導体需要の増加、中国向け・ASEAN向けのゴム製品と石油製品の輸出増などを受けて回復基調が鮮明になっている。一方、輸入額は前年同月比19.3%増と、前月の同20.4%増から小幅に低下した。結果、貿易収支は16.2億ドルの黒字となり、前月から0.1億ドル黒字が拡大した（図表3）。

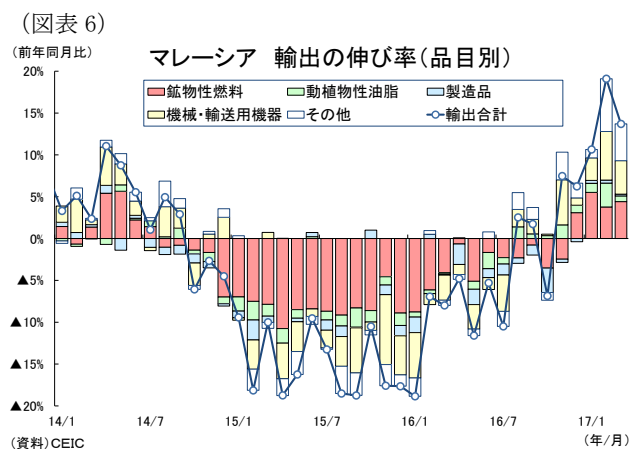
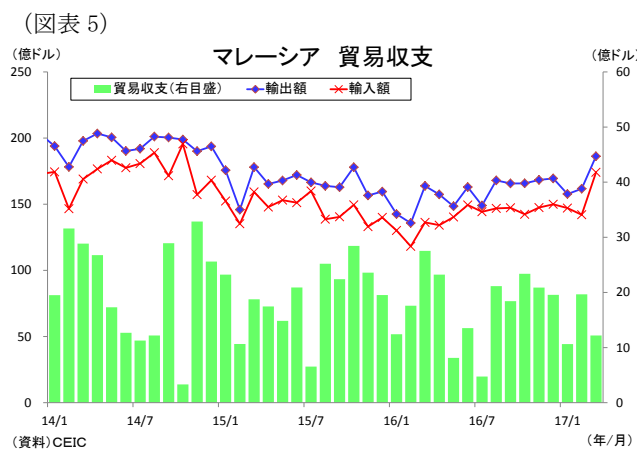
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同8.7%増と、前月の同5.9%減から大きく上昇した（図表4）。工業製品の内訳を見ると、好調の続く電子機器（同19.5%増）と家電製品（同13.4%増）が一段と上昇したほか、機械・装置（同7.6%増）や主力の自動車・部品（同

5.3%増)、石油化学製品(同8.4%増)も持ち直した。また農産品・加工品は同7.3%増(前月:同10.1%増)と、コメ(同5.0%減)や砂糖(同5.3%減)の落ち込みが響いて低下したものの、ゴム(同95.4%増)とゴム製品(58.6%増)は依然として好調で高めの伸びを維持した。さらに、鉱業・燃料も同44.9%増(前月:同28.9%増)と再び上昇し、石油製品を中心に二桁増の高い伸びが続いている。



マレーシアの17年3月の輸出額は前年同月比13.7%増と、前月の同19.1%増から低下したものの、3ヵ月連続の二桁増を記録した。輸出の伸び率は16年初に資源価格が上昇に転じてから持ち直し、また16年後半には主力の電気電子製品も増加に転じ、回復基調が鮮明になっている。一方、輸入額も前年同月比27.7%増と、前月の同20.2%増から上昇した。結果、貿易収支は12.2億ドルの黒字と、前月から7.5億ドル黒字が縮小した(図表5)。

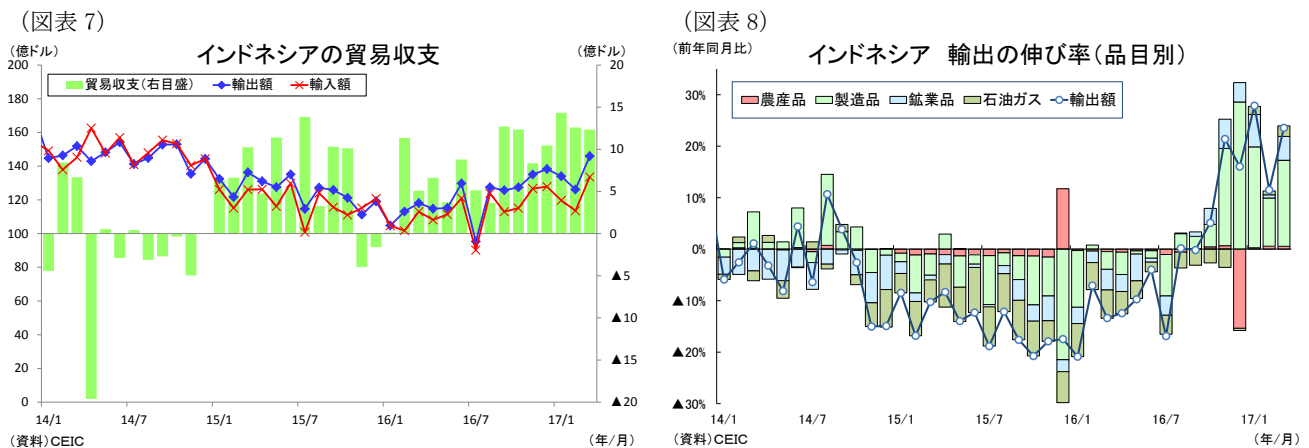
輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同9.2%増と、前月の同13.7%増から低下したものの、主力の電気・電子製品(同11.1%増)を中心に高めの伸びを維持した(図表6)。また動植物性油脂は同12.0%増も前月の同52.2%増から鈍化したものの、価格が上昇したパーム油・同製品(同14.8%増)を中心に5ヵ月連続の二桁増となった。このほか、製造品は同2.1%増(前月:同3.6%増)と若干低下した。一方、鉱物性燃料は同32.0%増(前月:同25.7%増)と、価格ベースと数量ベースがそれぞれ拡大して上昇した。



インドネシアの17年3月の輸出額は前年同月比23.6%増と、前月の同11.2%増から上昇した。輸出は16年初の原油価格の底打ちを受けて緩やかに持ち直し、年後半には数量ベースでも増加に転じ

て一段と上昇、伸び率は5ヵ月連続の二桁増が続いている。一方、輸入額も前年同月比18.2%増と、前月の同10.6%増から上昇した。結果、貿易収支は12.3億ドルの黒字と、前月から0.3億ドル黒字が縮小した（図表7）。

輸出を品目別に見ると、まず石油ガスが同19.5%増（前月：同7.6%増）と、原油・ガスの価格上昇を受けて再び二桁増となった（図表8）。次に非石油ガスを見ると、輸出全体の7割を占める製造品は同22.0%増（前月：同12.2%増）と、ゴム製品が好調で上昇した。また鉱業品も同40.0%増（前月：同5.5%増）と、鉄鉱石を中心に大きく上昇した。一方、農産品は同28.1%増と、前月の同30.5%増から小幅に低下した。

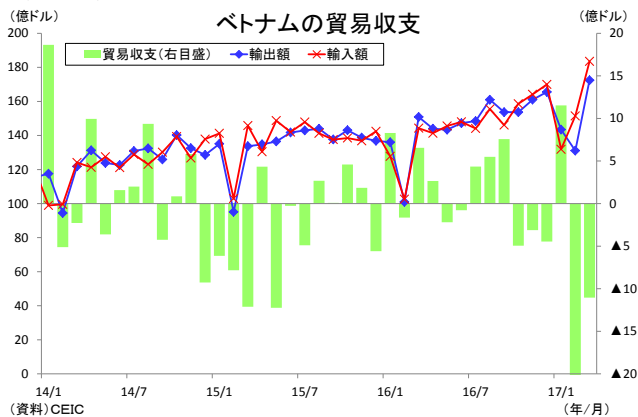


ベトナムの17年3月の輸出額は前年同月比14.3%増と、テト（旧正月）の影響で営業日数が多かった前月の同29.6%増からは低下したものの、2ヵ月連続の二桁増を記録した。輸出の伸び率は、16年前半に伸び悩んでいたものの、年後半から主力の電気・電子製品やアパレルを中心に勢いを取り戻しており、足元でも政府目標（17年は+6~7%）を上回る伸びが続いている。一方、輸入額は前年同月比27.2%増と、高水準ながらも前月の同48.5%増から低下した。結果、貿易収支は11.0億ドルの赤字となり、前月から9.4億ドル赤字が縮小した（図表9）。

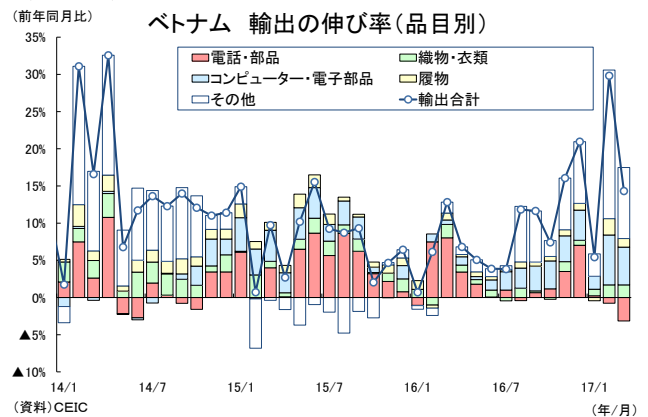
輸出を品目別に見ると、コンピュータ・電子部品が同53.7%増（前月：同64.9%増）、織物・衣類は同13.9%増（前月：同14.2%増）、履物は同19.0%増（前月：同34.6%増）とそれぞれ前月から低下したものの、高水準を維持した。また輸出全体の約2割を占める電話・部品が同13.3%減（前月：同3.2%減）と更に低下し、2ヵ月連続のマイナスとなった（図表10）。これはサムスン電子の新型スマホの発売が去年は2月だったのに対して今年は4月に遅れているためと考えられる。なお、農産品についてはコメ（同5.7%減）が引き続き減少したが、ゴム（同30.6%増）、野菜（同33.4%増）、コーヒー（同26.1%増）など大幅に増加した品目が多かった。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同13.1%増（前月：同26.8%増）、地場企業が同17.2%増（前月：同37.8%増）と、それぞれ前月から低下したものの、二桁増となった。

(図表 9)



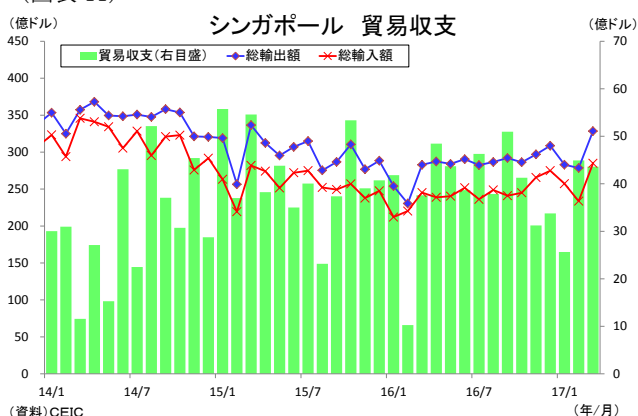
(図表 10)



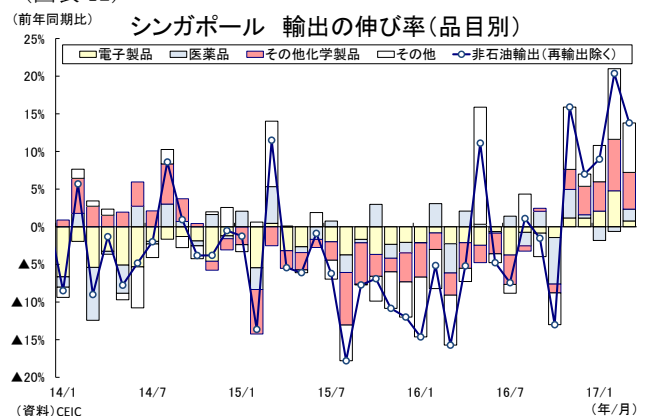
シンガポールの17年3月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比13.8%増と、旧正月の影響で営業日数が多かった前月の同20.4%増から低下したものの、5ヵ月連続のプラスとなった。輸出の伸びは医薬品の変動が大きいために上下に振れているものの、基調としては16年初に資源価格の上昇を受けて底打ちし、年後半には主力の電子製品と化学製品の需要が回復して増加傾向に転じている。なお、総輸出額は前年同月比16.1%増（前月：同20.9%増）と低下した一方、総輸入額は同16.1%増（前月：同6.1%増）と上昇した。結果、貿易収支は43.6億ドルの黒字と、前月から1.3億ドル黒字が縮小した（図表11）。

輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同2.8%増と、前月の同16.5%増から大幅に低下した（図表12）。電子製品の内訳を見ると、通信機器（同28.0%減）やPC（同9.6%減）、ダイオード・トランジスタ（同0.4%減）が低迷した一方、IC（同5.3%増）やPC部品（同30.8%増）、家庭電化製品（同26.9%増）が好調を続けるなど品目毎にバラつきがみられる。また電子製品と同じく全体の約3割を占める化学は同24.4%増と、前月の同20.4%増から上昇した。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同15.0%増（前月：同5.0%減）と3ヵ月ぶりのプラスに転じるとともに、石油化学製品が同39.5%増（前月：同44.4%増）と高水準を維持した。

(図表 11)



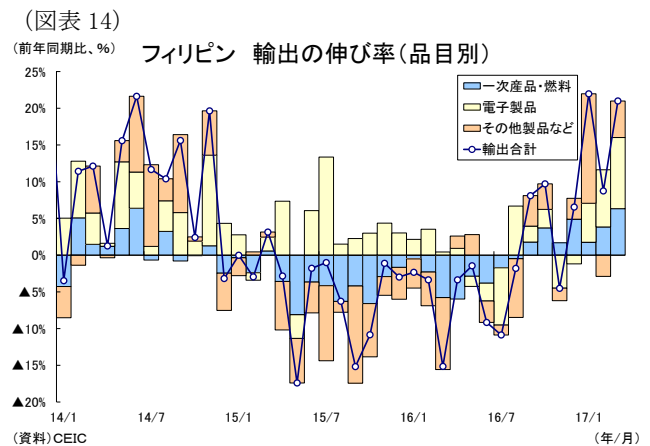
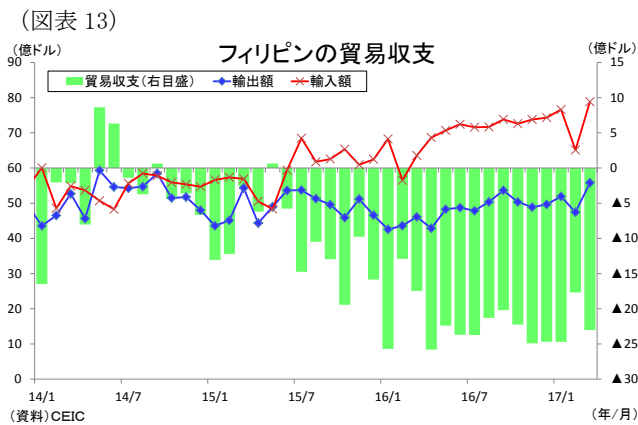
(図表 12)



フィリピンの17年3月の輸出額は前年同月比21.0%増（前月：同8.7%増）と上昇して5ヵ月連続のプラスとなった。輸出額は16年から資源価格の上昇を受けて一次産品を中心に緩やかに持ち直し、主力の電子製品とその他製品はやや不安定ながらも拡大傾向が続いている。一方、輸入額も前年同

月比24.0%増（前月：同15.2%増）と上昇し、依然として力強い内需を背景に高水準の伸びが続いている。結果、貿易収支は23.0億ドルの赤字と、前月から5.3億ドル赤字が拡大した（図表13）。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同19.0%増（前月：同15.9%増）と上昇して3ヵ月連続のプラスとなった（図表14）。電子製品の内訳を見ると、家庭電化製品（同70.5%減）と電気通信機器（同42.8%減）は昨年から減少傾向にある一方、計測制御機器（同43.2%増）や半導体デバイス（同23.2%増）、電子データ処理機（同27.1%増）は大幅な増加傾向がしている。その他9品目については、電極（同506.3%増）とココナッツオイル（同215.8%増）、金（116.8%増）、その他鉱業製品（同80.0%増）、機械・輸送用機器（同55.9%増）、その他製造品（同47.5%増）、金属部品（同21.8%増）、化学（同21.6%増）、イグニッション・ワイヤーセット（同20.2%増）がそれぞれ大きく増加した。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。